

有識者からの意見聴取

令和3年11月22日に都市計画等の専門である名城大学理工学部松本幸正教授から木曾岬干拓地の土地利用の方向性について、意見を聴取しました。

その概要は次のとおりです。

1 都市的土地利用の方向性の検討における意見等

- (ア) 木曾岬干拓地が活用されれば三重県内のみではなく、ひいては中京圏の発展に繋がる。県益を求めるのではなく、大きな視点で検討すべき。
- (イ) 中長期的な視野が必要。
- (ウ) 方向性等を決めていく過程においては、行政のみならず、経済界、金融界等様々な業界の意見を聞いたほうがよい。
特に愛知県については、隣接し、名古屋港など重要インフラを擁しているので、連携が重要。
- (エ) 様々な土地利用が考えられると思うが、総花的にならないよう中心となる土地利用が必要。
- (オ) 方針が明確化した段階で、外資系シンクタンクにも意見を求めてみてはどうか。
- (カ) 県、市町の若手職員でアイデアソンをしてみてもどうか。

2 有識者から示された土地利用案等

- (ア) 長島スパランド等既存の観光施設を活かした土地利用
アメリカのフロリダにあるディズニーランドとアニマルキングダムのように、複数の施設が連携することにより相乗効果が生まれる。
- (イ) ドローン輸送の完全自動化実験場などの最先端の実証実験場
海、河川が近く、ドローン輸送に適している。完全自動化できれば、災害発生時の人的被害が軽減できる。
- (ウ) 水素等のエネルギー基地
脱炭素などエネルギー問題は喫緊の課題。中京圏の真ん中に位置し、名古屋港が近く、位置的に優位で広さも十分にある。
- (エ) 地熱を使った新しい農業、漁業として土地利用
当地は温泉があるので、地熱を熱源とした高付加価値フルーツの栽培やフグの養殖等。
- (オ) 大規模商業施設での土地利用
建物の建設により固定資産税収入は得られるが、アメリカ等では大規模商業施設は衰退しつつある。